



# 関西医科大学大学院 生涯健康科学研究科 2025年4月開設



2021年に誕生したリハビリテーション学部は生涯健康科学研究科修士課程を設置して、新たな一歩を踏み出します。少子高齢化が進行する中、益々リハビリテーションの重要性が高まってきました。修士課程では学部教育から発展して、子供から大人までを対象とした最先端の知識を習得し課題解決能力を養成します。地域の一般病院、介護・福祉施設だけでなく大学等の機関、附属関連病院で率先して課題解決を図るリーダー育成を目指します。

学長 木梨 達雄



リハビリテーション学部は開設4年目を迎え、初めて卒業生を送り出します。来年度には大学院修士課程を設置させていただきます。大学院の名称は「生涯健康科学研究科」とし、我が国の超高齢化社会を見据え、心身の健康、疾病予防、健康増進、生活支援の研究に関心を持つ大学院生を受入れて、健康寿命の延伸や疾病予防等保健・医療・福祉分野についての高度な知識と技術を持ち指導的役割を果たすことのできる人材の育成を目指します。

リハビリテーション学部 学部長  
生涯健康科学研究科 研究科長予定者 飯田 寛和

生涯健康科学研究科概要	
開設年度	2025年(令和7年)4月
設置場所	関西医科大学牧野キャンパス(大阪府枚方市宇山東町18-89)
標準修業年限	2年
入学定員	8名
取得学位	修士(生涯健康科学)[Master of Life Health Science]

**教育理念**

生涯健康科学研究科では、こどもから高齢者まで生涯にわたる最先端の健康科学の専門教育と研究に関する教育を行うことで、リハビリテーションのみならず保健・医療・福祉・教育分野に関する健康先進国の創造に貢献することを教育理念とする。

## 生涯健康科学研究科修士課程 Master of Life Health Science

**特色** 地域においてこどもから高齢者に至る生涯を通じた予防・健康づくりを推進する  
我が国の保健・医療・福祉分野において貢献できる能力を有する高度専門職業人及び研究者の養成

- ディプロマポリシー**
- 1) 保健・医療・福祉分野において高度な専門知識を修得する。
  - 2) 心身の健康、疾病予防、健康増進及び生活支援等の領域において、人々の健康に関与する人材として保健・医療・福祉分野における役割を理解し、指導的立場に立ち多職種と連携できる。
  - 3) それぞれの専門領域の発展のために、高度な技能を習得し、実践・研究課題について探求することができる。
  - 4) 自ら専門領域における課題を発見し、課題解決を図ることができる。
  - 5) 自立した研究者としての基盤となる基礎的研究能力・技術等の素養を身に付けている。

- カリキュラムポリシー**
- 1) 心身の健康、疾病予防、健康増進及び生活支援に関連する必修科目を配置する。
  - 2) 人々の健康に寄与できるよう自身の専門領域のみならず関連分野の高度な知識を修得できる科目を配置する。
  - 3) 保健・医療・福祉分野において、それぞれの専門領域の役割を理解し、高度専門職業人としての素養を養う科目を配置する。
  - 4) 自身の専門分野において高度な専門的知識及び技能を習得できるよう専門基礎科目を配置する。
  - 5) 高度化・複雑化する社会において必要となる生活機能、心身機能、認知機能について高度な専門的知識を修得できる専門科目を配置する。
  - 6) 研究を進める上で必要となる研究計画、研究実施などの能力を身に付ける科目を配置する。

	領域	授業科目
専門科目	生体機能解析学	生体機能解析学特論 生体機能解析学演習
	健康支援開発学	健康支援開発学特論 健康支援開発学演習
	こどもとおとなの神経科学	こどもとおとなの神経科学特論 こどもとおとなの神経科学演習
	こどもとおとなの生活科学	こどもとおとなの生活科学特論 こどもとおとなの生活科学演習

## アドミッションポリシー

- 1) 人々の健康に関与する人として必要とされる知識及び実践能力を習得するための基礎的能力を備えている人。
- 2) 保健・医療・福祉分野の諸課題について強い関心及び向上心を持つ人。
- 3) 様々な視点から多様化する保健・医療・福祉分野における課題を発見し、解決する探求心を持つ人。
- 4) 人々の健康に関与する人として高い倫理観を持ち、専門領域の発展に貢献する意欲のある人。

※専門基礎科目として健康に関する科目を別に配置しています

## 指導教員の研究概要

領域	指導教員	研究課題
生体機能解析学	飯田 寛和	<ul style="list-style-type: none"> <li>■筋・骨格系機能解剖学と関節疾患の機能障害に関する研究</li> <li>■健康増進のためのデバイス、サービス開発</li> <li>■股関節疾患の新規治療開発</li> </ul>
	市橋 則明	<ul style="list-style-type: none"> <li>■運動器系理学療法に関する臨床的研究およびバイオメカニクス的研究</li> <li>■ストレッチングと筋力トレーニングに関する研究、■医用画像（超音波・MRI）解析による筋腱複合体の形態学的研究</li> <li>■関節の制御機構と筋機能に関する基礎的および臨床的研究</li> </ul>
	佐藤 春彦	<ul style="list-style-type: none"> <li>■生体センシング技術を活用した姿勢運動評価に関する研究</li> <li>■生体センシング、機械学習を駆使した障害児のコミュニケーション支援に関する研究</li> <li>■乳幼児の運動発達に関するバイオメカニクス的研究、■障害予防・運動発達支援を目指したライフログの活用に関する研究</li> </ul>
	中野 治郎	<ul style="list-style-type: none"> <li>■がんリハビリテーションに関する臨床研究、■腫瘍に対する運動療法の効果に関する実験的基礎研究</li> <li>■リハビリテーションに関する文献的研究：システムティックレビューの作成</li> <li>■物理療法の新たな効果・適応に関する探索的研究、■がんサバイバーを対象としたアンケート調査</li> </ul>
	前澤 仁志	<ul style="list-style-type: none"> <li>■非侵襲的脳機能計測によるヒト感覚運動制御機構に関する研究</li> <li>■経頭蓋電気刺激による中枢神経機能の変調とパフォーマンス改善に関する研究</li> <li>■嚙下・発話機能の神経生理学的手法を用いた研究</li> </ul>
健康支援開発学	池添 冬芽	<ul style="list-style-type: none"> <li>■フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドロームに関する臨床研究</li> <li>■高齢者に対する身体機能評価手法および運動トレーニング法の開発</li> <li>■高齢者の骨格筋特性・運動機能および活動に関する臨床研究</li> </ul>
	野村 卓生	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ダイアベティス理学療法に関する研究、■労働者の運動器障害を予防する産業理学療法研究</li> <li>■先端機器を用いた運動療法の効果検証に関する研究、■ウェアラブルデバイスを用いた24時間行動に関する研究</li> <li>■リハビリテーション領域におけるデジタルバイオマーカーの開発</li> </ul>
	浅井 剛	<ul style="list-style-type: none"> <li>■小型慣性センサを用いた歩行解析に関する研究、■地域高齢者における転倒リスク要因の探索</li> <li>■転倒恐怖感が運動機能に及ぼす影響に関する研究</li> <li>■理学療法評価機器の開発および研究</li> </ul>
	福元 喜啓	<ul style="list-style-type: none"> <li>■超音波画像装置を用いた、高齢者および運動器疾患患者における筋・関節の特性解析に関する研究</li> <li>■画像解析や生体電気インピーダンス法による新たな筋特性評価方法に関する研究</li> <li>■高齢者の身体機能評価方法と健康支援方法の開発に向けた、地域在住高齢者のコホート研究</li> </ul>
神経科学 こどもとおとなの	種村 留美	<ul style="list-style-type: none"> <li>■高次脳機能障害の評価技法開発</li> <li>■高次脳機能障害のリハビリテーション</li> <li>■高次脳機能障害、認知症のICTを用いた在宅支援</li> </ul>
	吉村 匡史	<ul style="list-style-type: none"> <li>■精神疾患患者、健常者を対象とした脳波による脳機能評価</li> <li>■精神疾患のリハビリテーション</li> </ul>
	三木 恵美	<ul style="list-style-type: none"> <li>■がん患者/サバイバーに対するリハビリテーションに関する研究、■がん患者・サバイバーの就労支援に関する研究</li> <li>■地域在住高齢者のフレイル予防とWell-beingに関する研究</li> <li>■終末期患者に対する作業療法のアウトカム評価に関する研究</li> </ul>
生活科学 こどもとおとなの	福井 信佳	<ul style="list-style-type: none"> <li>■福祉機器、義肢装具等の開発・評価に関する研究</li> <li>■障がいのある人の職場定着に関する研究</li> </ul>
	加藤 寿宏	<ul style="list-style-type: none"> <li>■神経発達症児のリハビリテーションの効果研究、■神経発達症児の感覚と運動に関する臨床評価の開発</li> <li>■学校作業療法に関する臨床研究</li> <li>■小児リハビリテーションの臨床研究</li> </ul>
	松島 佳苗	<ul style="list-style-type: none"> <li>■神経発達症児の協調運動の定量的指標開発、■生理指標を用いた神経発達症児の感覚特性理解</li> <li>■小児がんの作業療法</li> <li>■地域における子育て支援と作業療法</li> </ul>
	中山 淳	<ul style="list-style-type: none"> <li>■治療器および解析機器を駆使した評価・アプローチ方法の研究を行う</li> <li>■患者モデルを想定し、最先端の三次元動作分析装置、表面筋電図、脳波計などを用いて分析を行う</li> <li>■運動機能障害に関する臨床研究を行う、■義肢装具を用いた介入方法の検討、■新たな義肢装具の研究開発を行う</li> </ul>

